



第一次玉山登山 (1998年)

を提出して、良く整備された登山道を登り、登山初日は排雲山荘前にテントを張った。

4日目 早朝、月明りの中を登り出し、日の出と同時に無事3人で「玉山」3952メートル山頂に立った。素晴らしい天気

5日目 早朝、森林鉄道で祝山まで登り、玉山の素晴らしい日の出を眺めた。その後、下山途中で有名な湖「日月潭」を観光し夕方「彰化駅」まで送ってもらいガイド料を渡し、お礼を言って別れた。

6日目 彰化駅から自強号で台南に向かう。隣の席は海軍の青年(25才)だった。彼に自転車一周で知り合った台南の人に携帯電話をしてもうっが繋がらず止むを得ず、高雄駅まで行って「小琉球島」を目指すことにした。彼は見ず知らずの私に、高雄駅までの乗り越し運賃と高雄から東港までのバスの切符、弁当、飲料、果物まで差し入れ

てくれ、バスの運転手に下車する場所を伝えてくれた。若い人の懇親的な親切に頭が下がった。小琉球島に着いて、海岸にテントを張る準備をしていた時、島に帰省し磯遊び中の親子連れに、自転車台湾一周の写真を見せながら話かけたところ、テントに泊まるのは止めて私の家に泊まれというので一泊一飯お世話になる。日本人が来たというので親戚の人が集まると、両親は戦時中に日本の教育を受けているので、日本語が達者だった。

7日目 帰省中の息子さんに、全てサンゴ礁で出来ている小琉球島を案内してもらい、英単語と筆談で意思疎通を図ると、小学校の先生でバレーボールの台湾代表選手になったこともあると言った。

これからは英語が大事だと子供たちに英語を勉強させていた。帰りに港まで送って頂き、船の切符まで買って見送ってもらった。(現在も連絡を取り合っている。)

8日目 林氏宅からの帰り、屏東駅で「貴方は日本人か」と多くの老人が寄って来て、切符の買い方など親切に教えてくれた。台東新車で、自転車一周の知り合い、お世話になったプマ族の王に電話をすると、休暇を取って待っていると車で迎えに来てくれた。叔父(徐さん)も駆けつけ、歓迎昼食会となる。その後、台東周辺を案内してもらい、夜は徐さん宅で馳走になり、親戚宅の宴会にも呼ばれその輪に入った。

9日目 早朝、徐さんの車で富岡港まで送ってもらい「緑島」へ船で向かう。暑い、さすが南の島だ。途中で海水浴をしながらキャンプ場まで約四キロ歩く。道路工事現場の青年が「炎天下を歩くのは大変だから」とペットボトル1.5Lを差し入れてくれた。テント設置後、近くにある、海底の温泉と海水が混ざる温泉に入り汗を流した。

10日目 国民宿舎の所長の計らいでスクーターを借り、灯台、將軍岩、観音堂と、睡美人岩の見える東屋を見物し島を一周した。夜は、緑島の食堂で台湾ビールと獲り立ての海鮮料理を頂き、海底温泉に入り旅の疲れを癒した。

11日目 数々の夏の思い出

出「緑島」を後に台東「富岡港」に着くと徐さんが車で迎え、台東新車で送ってくれた。台北駅に着くと留学生OGが出迎えてくれ、彼女の自宅に立ち寄り両親に挨拶をした。

ホテルでチェックイン後、留学生校友が開いてくれた晩餐会に参加した。その席で最近、台湾から日本への留学生が減少していることについて訪ねたところ、「日本経済に魅力がなくなったこと」と「英語圏に留学した方が求人が多いこと」に原因があると言った。

12日目 留学生校友代表の呉君とテニスとプールを楽しみ、夜は留学生OGと3人で有名な本場「基隆の屋台の味」を楽しみ、呉君宅へ立ち寄り家族へ挨拶をし、深夜ホテルへ帰った。

13日目 呉君がスポーツカーで桃園国際空港まで送ってくれた。

20時に無事、神奈川県藤沢市「善行」の自宅に帰ることが出来た。13日間お世話になった多くの方々に感謝とお礼を申し上げます。

その後の話題は、戦時中を受けた日本の教育の思い出が中心になった。まず、君が代を歌い、軍人が歌っていたので覚えを次々に歌い出す。教育勅語も暗記して、今でも日本ではちゃんとやっていると驚いた。

下山後、台北市内の蔣介石を祀る中正紀念堂、忠烈祠や龍山寺、故宮博物院を見学した。

その後、私は本隊と別行動で6年前台湾自転車一周の時と第1次玉山登山で下山後お世話になった台東卑南(プマ族)の徐さん宅を訪ねた。今回で3回目の訪問になる。近くの畑の小屋の木の陰に親戚や同僚が酒や肴を持ち寄り、抜けるような南国の青い空の下で私の「歓迎昼食会」を開いてくれた。

また、その方々が健在なうちに、多くの日本人が台湾を訪れ、直接交流の機会を持つことは意義があると痛感した。

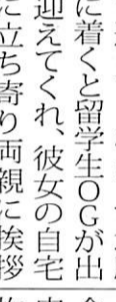
その後、2013年まで3回訪問したが、この間にほとんどの方が他界しておられたのは残念でした。しかし、若い人たちにも良い意味での「おもてなし」と親日の精神」は引き継がれているのを見て心強く感じている。

今後とも微力ながら、日台親善にお役に立てればと祈念しております。

中山道妻籠宿にある旅籠の看板。この宿場には、江戸時代からの旅籠が建ち並んでいて、現代の旅人も気軽に泊まれる。静かな佇まいを歩きながらこれらの看板を見ると、注目のざわめきが聞こえてくるようである。

「家の光」昨年二月号「読者文芸」に、ふと思いついて投稿しておいた「詩」が思いがけず入選となった。選評として「まもる!」読み終わった後も、温かい声が耳に響いています。「選り山崎るり子」とあった。

高年齢者叙勲者紹介



高年齢者叙勲(88歳) / 瑞宝双光章受章 元・元志摩郡阿児町立藤方小学校長 日本大学通信教育部国文卒(昭和29年) (文責 大形 弘)

詩 川の旅路

日本大学通信教育部 清水 勇男

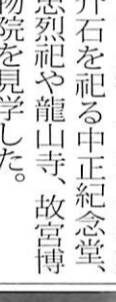
(一)川は流る、釜無川 小ぢやな川でも源流で新アルプス駒ヶ岳 源水集めて甲斐の国

(二)ぼくらの行手は太平洋 途上に集まる甲府盆地 笛吹川に合流して 富士川と名を変える

(三)甲州甲府は戦国の 時代を築いた信玄公 富士のお山と名を残す 川は大河と名を残す

(四)見延山詣りは途中下車 日蓮菩薩に無事折る ここは太平洋駿河湾 霊峰富士に最敬礼

下山後、台湾校友と交流会



2002年「台日友好親善旅行」の思い出 下山後、台湾校友と交流会 (2002年)

その後の話題は、戦時中を受けた日本の教育の思い出が中心になった。まず、君が代を歌い、軍人が歌っていたので覚えを次々に歌い出す。教育勅語も暗記して、今でも日本ではちゃんとやっていると驚いた。

自分たちは「プマ族」で昭和8(1933)年生まれ、台湾には9つの原住民がいるが、今でも我々の世代にとって日本語が共通語だと流暢な仲間が徐さん宅に集まり、昼間の話の続きを聞き「生きた歴史の事実を知らされた」思いである。

また、その方々が健在なうちに、多くの日本人が台湾を訪れ、直接交流の機会を持つことは意義があると痛感した。

その後、2013年まで3回訪問したが、この間にほとんどの方が他界しておられたのは残念でした。しかし、若い人たちにも良い意味での「おもてなし」と親日の精神」は引き継がれているのを見て心強く感じている。

今後とも微力ながら、日台親善にお役に立てればと祈念しております。

中山道妻籠宿にある旅籠の看板。この宿場には、江戸時代からの旅籠が建ち並んでいて、現代の旅人も気軽に泊まれる。静かな佇まいを歩きながらこれらの看板を見ると、注目のざわめきが聞こえてくるようである。

「家の光」昨年二月号「読者文芸」に、ふと思いついて投稿しておいた「詩」が思いがけず入選となった。選評として「まもる!」読み終わった後も、温かい声が耳に響いています。「選り山崎るり子」とあった。

詩 亡き母の声

相談役 本田 守

「まもる!」 階下から亡き母の音がする

「まもる!」 階上で寝ている私を、呼び起こす母の声を、

「まもる!」 続いて聞える女兒の声を、

「まもる!」 当時小一の娘が祖母の真似をして叫んでいる

「まもる!」 続いて聞える男児の声を、

「まもる!」 当時3歳だった息子が姉の真似をして叫んでいる 「ワッハッハ」

この連鎖に如何にも可笑しそうに笑った母が、89歳を一期として逝ってから間もなく14年である

「家の光」昨年二月号「読者文芸」に、ふと思いついて投稿しておいた「詩」が思いがけず入選となった。選評として「まもる!」読み終わった後も、温かい声が耳に響いています。「選り山崎るり子」とあった。

詩 町まじりの文字 (32)

中山道妻籠宿にある旅籠の看板。この宿場には、江戸時代からの旅籠が建ち並んでいて、現代の旅人も気軽に泊まれる。静かな佇まいを歩きながらこれらの看板を見ると、注目のざわめきが聞こえてくるようである。

「家の光」昨年二月号「読者文芸」に、ふと思いついて投稿しておいた「詩」が思いがけず入選となった。選評として「まもる!」読み終わった後も、温かい声が耳に響いています。「選り山崎るり子」とあった。

詩 町まじりの文字 (32)

中山道妻籠宿にある旅籠の看板。この宿場には、江戸時代からの旅籠が建ち並んでいて、現代の旅人も気軽に泊まれる。静かな佇まいを歩きながらこれらの看板を見ると、注目のざわめきが聞こえてくるようである。

「家の光」昨年二月号「読者文芸」に、ふと思いついて投稿しておいた「詩」が思いがけず入選となった。選評として「まもる!」読み終わった後も、温かい声が耳に響いています。「選り山崎るり子」とあった。

詩 町まじりの文字 (32)

中山道妻籠宿にある旅籠の看板。この宿場には、江戸時代からの旅籠が建ち並んでいて、現代の旅人も気軽に泊まれる。静かな佇まいを歩きながらこれらの看板を見ると、注目のざわめきが聞こえてくるようである。

「家の光」昨年二月号「読者文芸」に、ふと思いついて投稿しておいた「詩」が思いがけず入選となった。選評として「まもる!」読み終わった後も、温かい声が耳に響いています。「選り山崎るり子」とあった。

詩 町まじりの文字 (32)

中山道妻籠宿にある旅籠の看板。この宿場には、江戸時代からの旅籠が建ち並んでいて、現代の旅人も気軽に泊まれる。静かな佇まいを歩きながらこれらの看板を見ると、注目のざわめきが聞こえてくるようである。

「家の光」昨年二月号「読者文芸」に、ふと思いついて投稿しておいた「詩」が思いがけず入選となった。選評として「まもる!」読み終わった後も、温かい声が耳に響いています。「選り山崎るり子」とあった。

詩 町まじりの文字 (32)

中山道妻籠宿にある旅籠の看板。この宿場には、江戸時代からの旅籠が建ち並んでいて、現代の旅人も気軽に泊まれる。静かな佇まいを歩きながらこれらの看板を見ると、注目のざわめきが聞こえてくるようである。

「家の光」昨年二月号「読者文芸」に、ふと思いついて投稿しておいた「詩」が思いがけず入選となった。選評として「まもる!」読み終わった後も、温かい声が耳に響いています。「選り山崎るり子」とあった。

詩 町まじりの文字 (32)

高年齢者叙勲者紹介



高年齢者叙勲(88歳) / 瑞宝双光章受章 元・元志摩郡阿児町立藤方小学校長 日本大学通信教育部国文卒(昭和29年) (文責 大形 弘)

詩 川の旅路

日本大学通信教育部 清水 勇男

(一)川は流る、釜無川 小ぢやな川でも源流で新アルプス駒ヶ岳 源水集めて甲斐の国

(二)ぼくらの行手は太平洋 途上に集まる甲府盆地 笛吹川に合流して 富士川と名を変える

(三)甲州甲府は戦国の 時代を築いた信玄公 富士のお山と名を残す 川は大河と名を残す

(四)見延山詣りは途中下車 日蓮菩薩に無事折る ここは太平洋駿河湾 霊峰富士に最敬礼

下山後、台湾校友と交流会



2002年「台日友好親善旅行」の思い出 下山後、台湾校友と交流会 (2002年)

その後の話題は、戦時中を受けた日本の教育の思い出が中心になった。まず、君が代を歌い、軍人が歌っていたので覚えを次々に歌い出す。教育勅語も暗記して、今でも日本ではちゃんとやっていると驚いた。

自分たちは「プマ族」で昭和8(1933)年生まれ、台湾には9つの原住民がいるが、今でも我々の世代にとって日本語が共通語だと流暢な仲間が徐さん宅に集まり、昼間の話の続きを聞き「生きた歴史の事実を知らされた」思いである。

また、その方々が健在なうちに、多くの日本人が台湾を訪れ、直接交流の機会を持つことは意義があると痛感した。

その後、2013年まで3回訪問したが、この間にほとんどの方が他界しておられたのは残念でした。しかし、若い人たちにも良い意味での「おもてなし」と親日の精神」は引き継がれているのを見て心強く感じている。

今後とも微力ながら、日台親善にお役に立てればと祈念しております。

中山道妻籠宿にある旅籠の看板。この宿場には、江戸時代からの旅籠が建ち並んでいて、現代の旅人も気軽に泊まれる。静かな佇まいを歩きながらこれらの看板を見ると、注目のざわめきが聞こえてくるようである。

「家の光」昨年二月号「読者文芸」に、ふと思いついて投稿しておいた「詩」が思いがけず入選となった。選評として「まもる!」読み終わった後も、温かい声が耳に響いています。「選り山崎るり子」とあった。

詩 亡き母の声

相談役 本田 守

「まもる!」 階下から亡き母の音がする

「まもる!」 階上で寝ている私を、呼び起こす母の声を、

「まもる!」 続いて聞える女兒の声を、

「まもる!」 当時小一の娘が祖母の真似をして叫んでいる

「まもる!」 続いて聞える男児の声を、

「まもる!」 当時3歳だった息子が姉の真似をして叫んでいる 「ワッハッハ」

わこう保険グループ (株)若生保険事務所 日本大学通信教育部校友会 幹事 日本大学通信教育部校友会 埼玉支部副支部長

若生 健一 取組役員 電話 048-666-0898 FAX 048-666-1334 携帯 090-380-1352

尾上 勝美 日本大学通信教育部校友会 相談役 日本根拠七段・公認審判員 電話 076-6068 FAX 076-6068

川田 順一 日本大学通信教育部校友会 副幹事長 日本大学通信教育部校友会 石狩支部監査 電話 004-0848 FAX 004-0848

矢吹 好憲 日本大学校友会福島支部 支部長 堂山健康ブルーベリー園 電話 0963-4203 FAX 0247-851318

のぞみ法律事務所 日本大学通信教育部校友会 静岡支部支部長 所長 後藤 正治 構成 弁護士 姉川 博之 (東京高等裁判所・元判事)

後藤 真希子 同 後藤 孝介 同 林 克樹 同 杉山 裕紀 同 電話 054-941-1700